

[概要]

本研究では、中学社会科教員の地理の学習経験の有無と、地理的分野の中の地理的技能に関わる分野の教えにくさに関係があるのかを明らかにすることを目的とする。石川県の中学社会科教員に質問紙調査と聞き取り調査を行い、高校地理及び大学での地理の学習経験の有無と、中学社会科の地理的分野の中の地理的技能に関わる分野の教えやすさ・教えにくさについて調査した。

本研究においては以下のことが明らかとなった。①高校地理を履修した中学社会科教員は、地図の活用に関する技能の「c 既存の地図から地理的事象を読み取ったり、地理的事象を地図を通して追求しとらえる技能」と関わる分野である「地図・地形図の読み方」と「地球儀と地図の図法」は教えやすい傾向を持つが、地理情報の活用に関する技能の a～d や地図の活用に関する技能の「a 地形図や市街図等の地図に慣れ親しみ、地図を頼りにして訪ね歩く技能」に関わる分野である地域調査に関する分野は、自身の経験がないために教えにくいとする傾向がある。②高校地理を履修していない中学社会科教員が、高校地理の履修がないために教えにくい可能性がある分野として地図の活用に関する技能の「c 既存の地図から地理的事象を読み取ったり、地理的事象を地図を通して追求しとらえる技能」と関わる分野である、「地球儀と地図の図法」、「緯度・経度と時差」が考えられる。③大学において、野外調査をする授業や地域を見て歩く授業（巡検を含む）の履修経験がある者は、地理情報の活用に関する技能 a～d に関わる「世界のさまざまな地域の調査」と、地理情報の活用に関する技能 a～d 及び地図の活用に関する技能の「a 地形図や市街図等の地図に慣れ親しみ、地図を頼りにして訪ね歩く技能」に関わる「身近な地域の調査」を教えやすい傾向がある。また、野外調査を行う授業を履修した者の内、半数以上が「身近な地域の調査」をしたいと思うと回答している。このことから、地域調査の教えやすさや意欲には、過去の学習経験、特に実際の経験や体験が関わるといえる。

キーワード：中学校社会科 地理的分野 地理的技能 中学社会科教員